



English-speaking Coordinators in Schools

学校ごとに英語が話せるJET コーディネーターの導入

Produced by the AJET National Council

平成26年度第1回全国役員意見交換会
2014年6月16日

MIC・MOFA・MEXT・CLAIR・AJET



AJET

学校ごとに英語が話せるJET コーディネーターの導入

レポートの筆者

報告筆者

Penny Fox

第10管区代表

Julia Mace

第8管区代表

翻訳担当者

Phillippa Harvey

国際交流員代表

レイアウト・デザイン

Melinda Lange

プロジェクトマネジャー

Penny Fox

データ分析協力

Kevin Chen

翻訳協力

Eriko Stronach

翻訳・通訳コーディネーター



摘要

本報告書は、JETプログラム参加者を採用する学校ごとに英語が話せる外国語指導助手 (ALT) コーディネーター (JETコーディネーター) を導入する提案に関して、現在のJETプログラム参加者の意見をまとめたレポートである。主な結果として、学校ごとにALT担当者の役割を作る必要性はあるかどうかについて、回答者の50%は必要性があると答えたが、43%は必要性がないと反対していることが明らかになった。また、アンケート調査の回答者の、JET参加者としての任用期間の長さによって、JETコーディネーターの必要性、または英語が話せるコーディネーターから求められるサービスについての意見が異なることがわかった。本報告書のデータによると、現在同じような役割を果たしている担当者、および学校の先生がいない場合は、1年目と2年目のJET参加者にとって、学校ごとにJETコーディネーターの存在は一番の助けになると考えられる。



Table of Contents

はじめに	1
調査方法	2
標本調査	3
結果・討議	4
英語が話せるJETコーディネーターの必要性	4
ALTに求められる情報	5
コーディネーター制度の成功に必要な要素	6
結論・提案	8

はじめに

2013年12月に行われた意見交換会で発表されたJETプログラムへのいくつかの変更やアイデアの提案に応え、JETプログラム参加者の会(以下はAJETという)は、発表された提案に関して、現在のJET参加者の意見に強い関心を持った。したがって、今年度の春の意見交換会に向けて、12月の意見交換会の提案をフォローしながら、本報告書のアンケート調査では、JET参加者の意見を集めることで、日本政府や地方自治体国際化協会(CLAIR)によるこれからの変更を企画することに役立てばと思われる。

その提案の1つとして、総務省(MIC)ではJETプログラムを使用するコミュニティーごとに外国語指導助手(ALT)と学校の教師と日本人の事務職員等とのコミュニケーションを支援することができる日本人のJETコーディネーターを採用する提案が現在検討中と伺った。

また、総務省やCLAIRが共に強い関心を寄せたのは、JET参加者と参加者のコミュニティーとより強いつながりを作るために、JET参加者はどのような情報を求めているのか、また、最も効果的な提供方法(出発前に提供する情報、または情報を提供する専門コーディネーター)はどのようなものかということであった。

この情報の希望に基づいて、今年度の春AJETアンケート調査では、現在のJET参加者にもし学校にJETコーディネーターがいたらどう思うか、または、コーディネーターがいればどのような情報を提供してほしいかについて質問を作成した。本報告書はこのアンケート調査の結果を発表する。

調査方法

本報告書のデータはAJETによって平成26年4月1日から18日までの期間に、インターネット調査ツールを利用して、実施したアンケート調査によるものである。アンケート調査は英語で実施された。質問の数は、回答者の職種をによって異なる。アンケート調査は選択式、複数選択式、自由記述等の形式による、ALTには49項目、スポーツ国際交流員(SEA)と国際交流員(CIR)には11項目にわたって質問した。

アンケート調査の主な四つのテーマは以下の通りである：

- 小学校における英語教育の変化
- 学校現場への英語コーディネーターの導入
- 外国語指導助手(ALT)が単独で授業を行うこと
- AJETの活動とサービス

便宜上、アンケート調査と同様4つの観点から、回答を分析したレポートを別途作成した。本報告書は、小学校での英語教育における変更点という観点でまとめた。報告書で「現在のJET参加者」という回答者には、初めてのJET参加者も、二回目以上のJET参加者も含まれている。なお、本報告書に記載されている数値は、少数第一位を四捨五入して整数にしてある。

JETプログラムに関する用語の名称は、以下のように省略している：

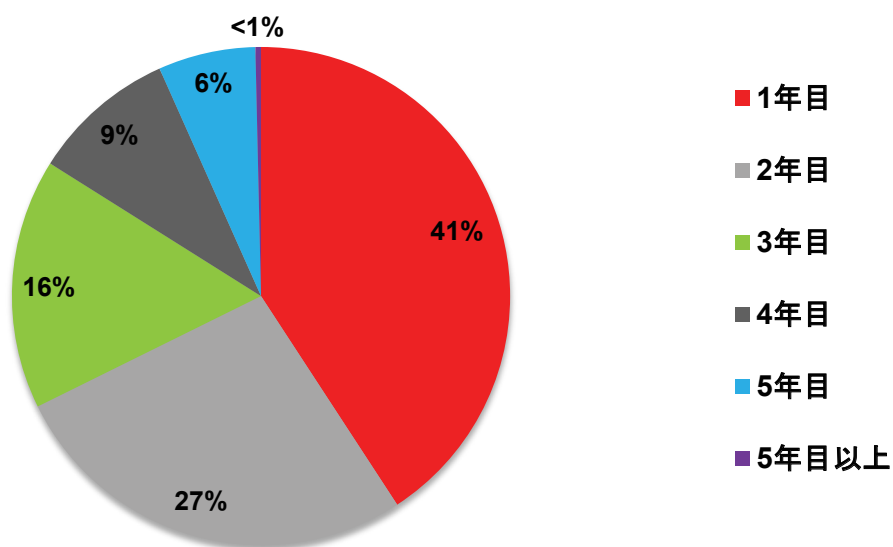
- ALT:外国語指導助手
- CIR:国際交流員
- SEA:スポーツ国際交流員
- AJET:JETプログラム参加者の会
- JET:JETプログラム、または「語学指導等を行う外国青年誘致事業」
- HRT:Home room teachers、または担任の先生

標本調査

アンケート調査の回答者は2013年度現在のJET参加者の計1135人である。この数字は全国の現役JET参加者の26%である。この1135人中、多くの回答者は中学校と高等学校に勤めていないと示したため、本報告書は現在中学校と高校に勤める554人の回答データに基づいている、つまり現在のJET参加者の13%である。554人全員は現在JETプログラムでALTとして活動している方である。

回答者のうち、最も多かったのはプログラムの参加者として1年目の方であった(41%)。次に2年目(27%)と3年目(16%)の方で、この情報は下の表に示されている。

JETプログラム参加者としての年数は？



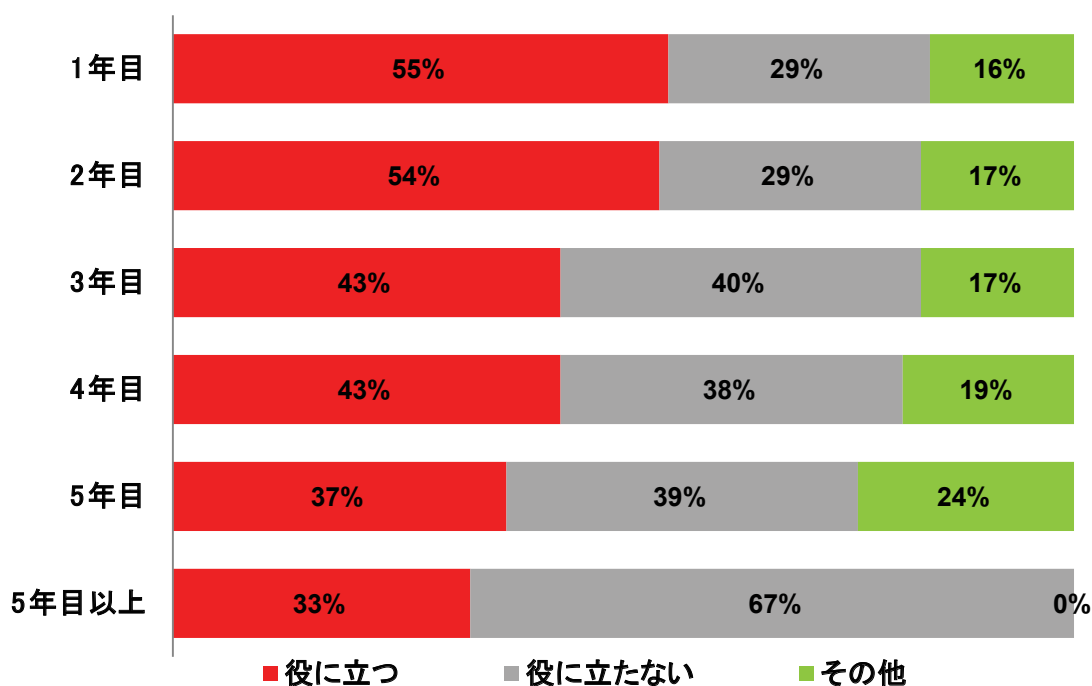
補足：JETプログラムの最大在職期限は5年間であるが、「5年目以上」というのは、JETプログラムに2回以上参加し、その在職期間が合わせて5年間を超過した参加者のことを示す。

結果・討議

英語が話せるJETコーディネーターの必要性

英語が話せるJETコーディネーターの役割の必要性に関して、回答者の意見が主に二つに分かれ、50%の回答者はコーディネーターの役割が役に立つと示したが、43%が役に立たないと回答した。この質問の回答では、JETプログラム参加者としての任務期間によって回答が変わる傾向がある。下の表が示している通り、1年目及び2年目の参加者は英語が話せるコーディネーターが自分にとって役に立つと回答した一方、3、4、または5年目の参加者は任務期間が長ければ長くなるほど便利ではないという回答者が多くなった。

学校に英語が話せるコーディネーターがいたら、役に立つと思いますか



なお、この表が表している回答データ以外に、この質問の自由回答ボックスで169のコメントをもらった。自由回答ボックスで述べられた意見の中では、JET参加者の担当者や日本人外国語指導員(JTE)がもうすでにコーディネーターの役割を果たしているため、新しいJETコーディネーターの役割を作って導入する必要性はないと述べた回答者が多かった。この傾向から、ALTにとって英語が話せるJETコーディネーターは役に立ちそうだと思っても、もうすでにこの役割を果たしている方が存在していることが分かる。もうすでにサポートがあるということはよい結果であった。多数のコメントした回答者は、担当者やJTEがコーディネーターの役割を果たしていない場合、果たすべきだと主張した。このため、さらに同じ役割を持つ新しいコーディネーターを導入したら、地域の資源やお金の無駄遣いになる意見も明らかになった。さらに、自由回答の中で、コーディネーターが配置されることで、今より学校との関係が離れてしまう不安感を抱えている回答者もいた。ある回答者は「コーディネーターが導入してしまったら、ス

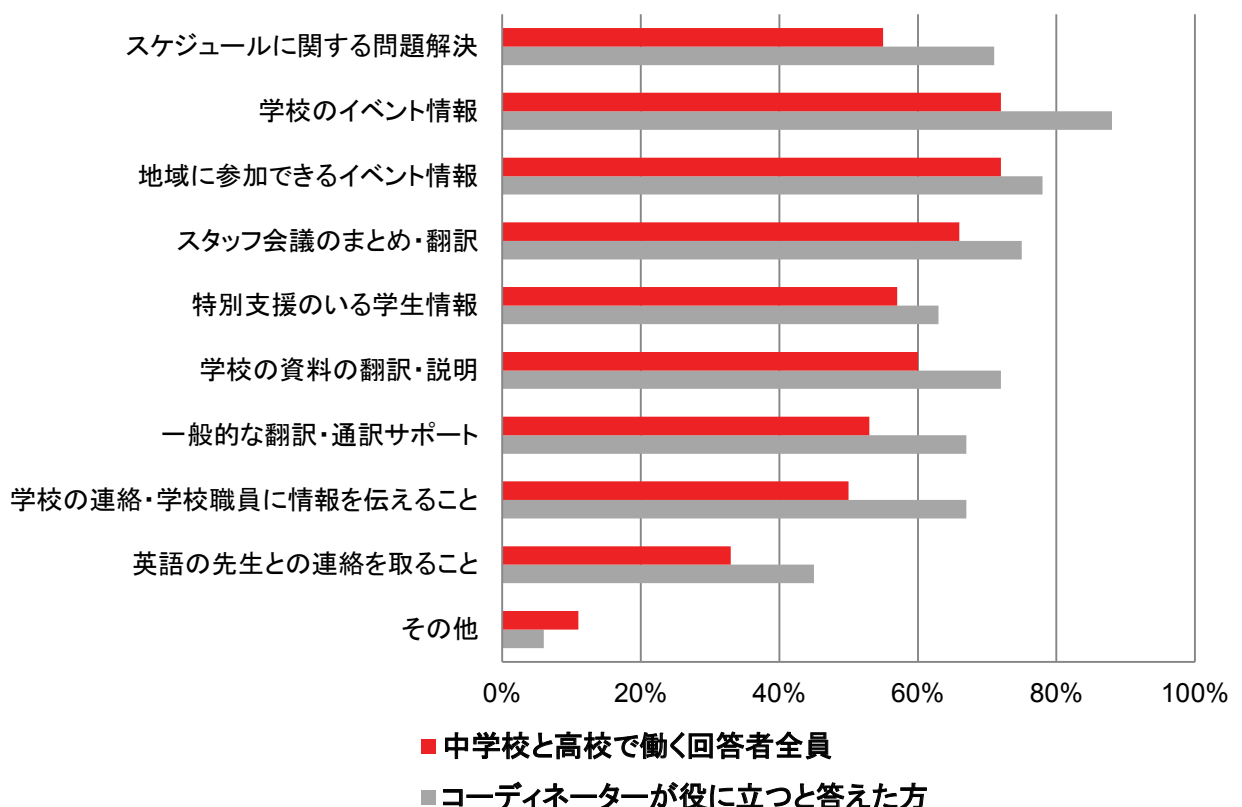
タッフのみんなは私と直接話すより、コーディネーターと話すから、もっと日本人職員との距離を感じてしまうだろう」と回答した。

ALTに求められる情報

本報告書のアンケート調査は、もう1つの目的としてJETプログラム参加者が英語が話せるJETコーディネーターから得たい情報について調べた。上記の質問に対して、学校にJETコーディネーターを導入することは役に立つと回答したかどうかに関係なく、ALTが最も求めている情報は学校のイベント及び地域とのつながりを築く機会である。

英語が話せるJETコーディネーターの導入に賛成した回答者の答えをみると、88%はコーディネーターから学校イベントの情報を得たいと示し、78%は地域の参加できるイベントの情報がほしいと示している。その回答以外では、学校のスタッフ会議のまとめと翻訳(コーディネーターが役に立つと回答した75%)、学校の資料の翻訳と説明(72%)及びスケジュールに関する問題解決(71%)というサポートが役に立つという回答が多かった。回答の詳細は下の表の通りである。

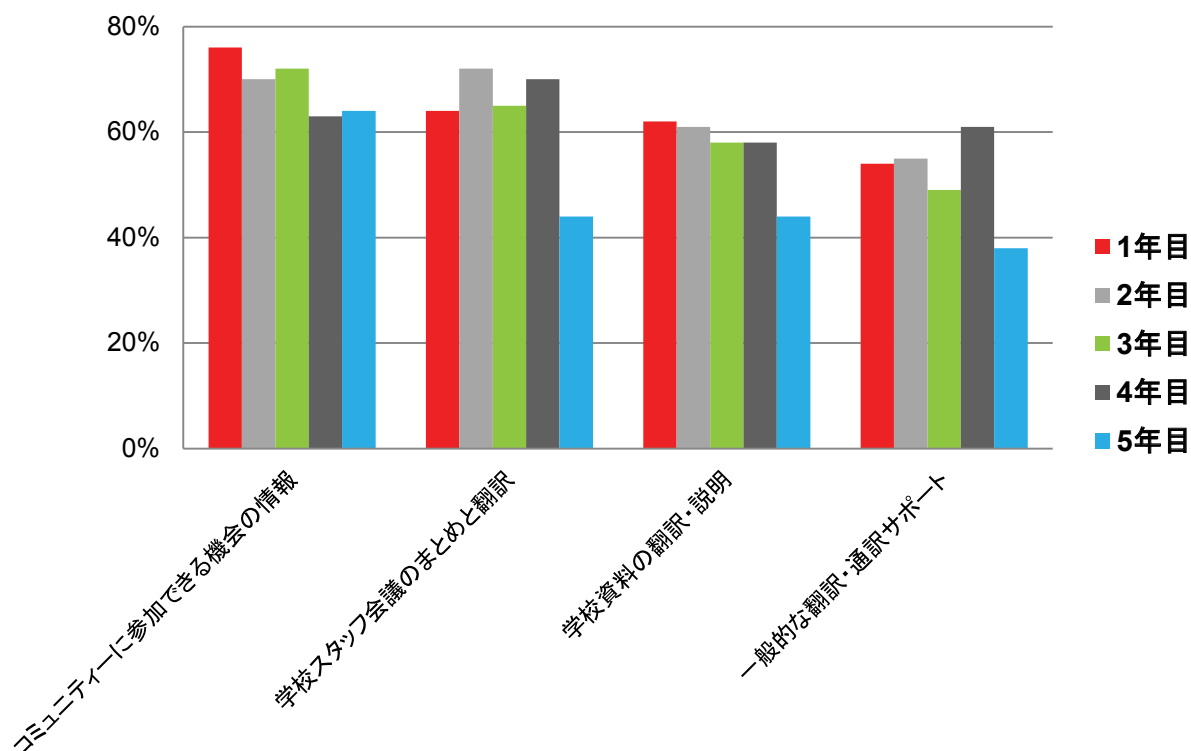
あなたにとってどの情報・サポートが役に立ちますか



ALTのJETプログラム参加者としての任務期間が長くなるほど、回答が変わった現象が表われた。地域の参加できるイベントに関する情報がほしいと示した1年目の回答者は76%であったが、同じ答えを示した5年目の参加者は64%であった。コーディネーターによる一般的な翻訳・通訳サポートの回答の傾向も同じで、54%の1年目の参加者は翻訳・通訳サポートがほしいと回答したのに対して、たった38%の5年目の参加者は同じ答えを選択した。このような傾向は、JET参加者の任務期間の長さとその経験によって変わると予想できる。4年目の参加者、または5年目の参加者はもう地域に参加できる方法を

知っている、または1年目の方より日本語能力が高いと思われる。そのため、1年目の参加者が、英語が話せるJETコーディネーターという存在を最も必要としていることがわかる。

あなたにとってどの情報・サポートが役に立ちますか

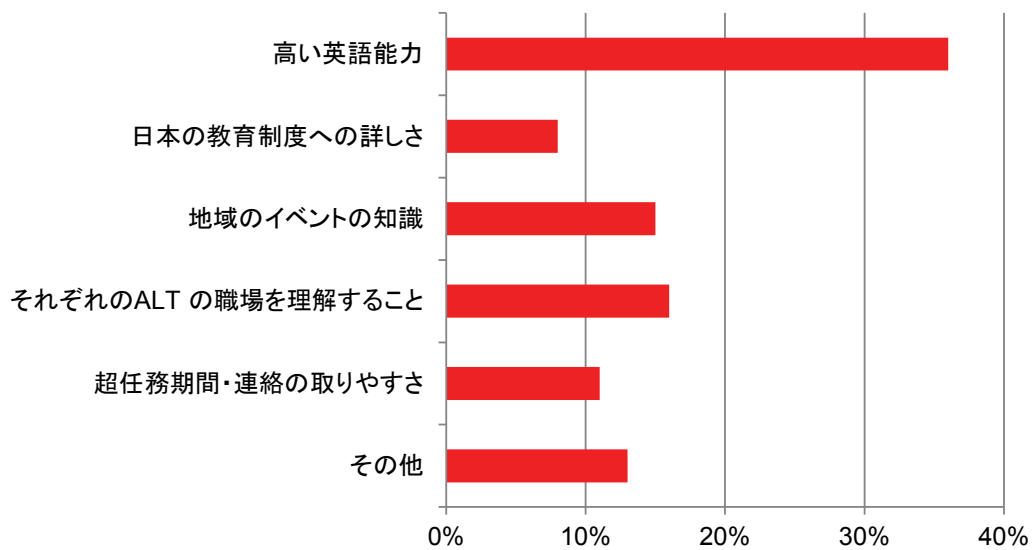


面白いことに、学校で英語が話せるコーディネーターを必要としないと示した65%の回答者でも地域参加の情報がもっともほしいと答えた。一方、学校のイベントに関する情報や、会議と資料の翻訳を選択した回答者の数は「コーディネーターが役に立つ」という回答者より大幅に少ない。このことから、ALTは学校の環境をすでに知っているため、コーディネーターを使用する必要がなくても、地域とのつながりを築く機会の情報を望む方もいるということが明らかになった。

コーディネーター制度の成功に必要な要素

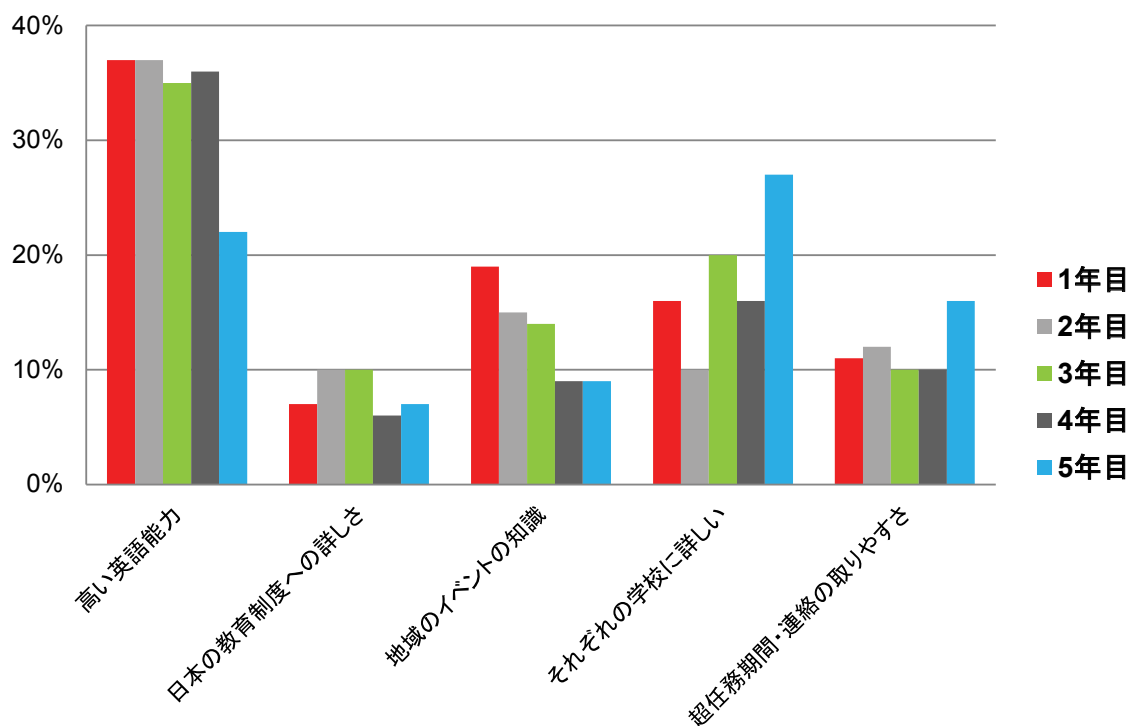
英語が話せるJETコーディネーターの制度の成功に必要な要素について聞かれた回答者の36%がもっとも重要なのは英語能力だと回答した。英語能力に続いて二番目に多かったのは、地域のイベント情報やそれぞれの学校に詳しいこと（ともに16%を得た選択項目）がコーディネーターの成功に必要なだとする回答である。自由回答もたくさんいただいた。書き込まれたコメントの中で、求められているコーディネーターの特徴は、話しやすさとJETプログラム参加者の支援を大事にすること、または西洋文化の経験のある方である。留学や海外生活を経験した方がコーディネーターの役割に最もふさわしいというコメントもあった。

コーディネーター制度の成功に必要な要素はなんだと思いますか



この回答でもまた一年目の参加者と2年目以上の参加者のコーディネーターに対する意見が違う傾向が表われている。2年目以上の参加者にとってコーディネーターの英語能力はあまり重要ではないと回答した方が多かった。または、地域のイベントの知識を持ってほしいという1年目の回答者は19%であったが、4・5年目のJETプログラム参加者の回答者のたった9%が地域のイベント情報がほしいと示した。その一方、5年目のJET参加者にとっては、ALTは働いている各々の学校に詳しいことが最も重要だと考えていることがわかる。ここまでまとめた年数によつての傾向と相違は下の表に表している。

あなたにとってどの情報・サポートが役に立ちますか



結論・提案

本報告書の結果として、英語が話せるJETコーディネーターは新規JETプログラム参加者にとって最も役に立つということがわかった。参加者は地域に長く暮らしているほどに、地域や学校の環境に慣れていき、4、5年目の参加者が示したように英語が話せるコーディネーターの必要性がだんだんと弱まる傾向が明らかになった。しかし、JETコーディネーターを導入すれば、地域や学校により活発に参加することに役に立つ場合もあると思われる。

本報告書のデータにより、高い英語能力及び学校環境に詳しい方がJETコーディネーターの役割を担うことを我々AJETは推奨する。もし、その条件を満たす人材が不可能であれば、JETプログラムの目的を達成するため、地域に住んでいる日本人と参加者のコミュニケーションを支援できるコーディネーターが良いと思われる。しかし、参加者のコメントとデータによると、すでに同様の役割を果たしているサポートが存在するところがあることが明らかになったため、コーディネーターを必要としている地域だけに導入することが重要ではないかと思われる。必要ではない地域で導入してしまうと、地域の資源や資金の無駄になる恐れもあるので、各地域でJETコーディネーターを導入する前に検討することを推奨する。

